

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700052		
法人名	社会福祉法人 昭寿会		
事業所名	福寿苑グループホーム		
所在地	熊本県阿蘇郡南小国町満願寺5861		
自己評価作成日	平成27年9月25日	評価結果市町村受理日	平成27年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成27年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・南小国町に福寿苑GHがある事が根付いてきており、地域の方から福寿苑に入りたいと云うお声を頂き、本当にありがたく思っております。入院されていた入居者のご家族から「福寿苑に帰りたい。福寿苑で最期を迎えたい」と言われるまでの信頼関係を築くことができ、また同じ敷地内の特養があり、医療面で連携を取る事ができる心強さがあります。職員が一体となり、入居の方が安心して穏やかな生活ができる基盤を作り、ご家族がいつでも気楽に訪ねて一緒に過ごして頂ける様にサポートをしてきました。地域貢献として地元「認知症サポーター養成講座」を集会所で開催し認知症の理解を深める事ができました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の温泉地に立つホームは現在目にも鮮やかな紅葉の季節を迎え、入居者に移行行く四季の変化をもたらしている。凜とした空気に包まれた自然の中で、入居者と職員の何気ない日常が展開され、訪れた者にも居心地の良い場所となっている。職員は外部評価の有る無しに関わらず、自己を振り返るスキルとして、1年の評価をしており、支援の向上に繋がる努力を重ねている。建物内外の安全管理、共有スペース及び居室の充実やゆとり、衛生面への配慮などは全て入居者への尊厳にも繋がっている。その中で自慢の竹細工を飾り草笛を楽しまれたり、新聞を読んだ後は小物入れや花作りを日課とするなど家庭に近い環境は、入居者のこれまでに敬意を払うと同時に、これからのこだわりの時間を後押ししている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・玄関前やリビングやスタッフルームに掲示し1日1回唱和し、その人らしくご利用者の思いが叶えられる様に穏やかな生活に繋がっている事を継続しています。	ホームの玄関を入ると季節の花とともに、壁に掲げられた理念が目にとまる。職員は来訪者に向け自然な形でホームの方針を啓発しながら、開所時から変わらぬ理念に親しみ、支援の目標としている。離職のない安定した職場環境は入居者にとって心の拠り所であり、理念の唱和も入居者の前で実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域のイベントの準備から職員が関わりながら参加し、当苑でのイベントにも地域の方が参加して頂き、お互いに協同しています。	静かな山里には古くから伝わる地域行事が多く、“芋煮会”など入居者にも馴染みのイベントには職員が準備の段階から関わっている。訪問当日も地元行事に参加し、にこやかな表情で帰ってこられる入居者の姿が見られた。法人施設で開催されている「認知症サポーター養成講座」を地域に出向き、出前講座として小規模に実施することで参加者によりわかりやすく紹介できるなど工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・毎年同法人の特養で「認知症サポーター養成講座」を開催し地元の方に文書を配布し行ってきましたが中々集まりが良くないので今年9月6日と17日に各地区集会所で講座を開催し認知症の理解やサポーターの役割を伝える事ができました。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・偶数月に必ず開催し、ご家族や委員の方に参加して活動状況等の報告をしました。マンネリ化傾向にある内容でありましたが、H26.12月の運営推進委員会には小国警察署の署長さんをお招きし地域密着型ホームと合同で講演をしてご家族や委員の方の多数の参加がありました。	ホームは地域からの信頼も厚く運営推進会議へも積極的な参加が得られている。2カ月ごとのヒヤリハットや事業報告の後、参加者から率直な意見や提案を求めている。ただ、運営に反映するような直接的な発言は少なく、本年度は施設長の提案により、町の警察担当者から地域の現状や防犯について話を聞く機会を設け、共に考える時間を持つなど会議の在り方を見直している。	会議のマンネリ化を防ぎ、地域と情報を共有する努力をしている。今後も地域の有識者や法人関係者の技能を反映されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営推進委員会には必ず介護保険の担当の方が参加して頂き、日頃より何かある時には電話や直接役場に出向き話をしています。	町の介護保険担当者の運営推進会議への参加により、ホームの現状を発信しながら情報を共有している。また、行政主催の研修への対応や、社協と協働して防災を兼ねた清掃活動に参加するなど、共に有効な関係作りができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・当苑に掲げている「職員の行動指針」を常に職員の眼に入る様に掲示しており、勉強会や法人全体の職員会議で取り上げて職員の理解や意識付けをしています。	身体拘束に関わる内容を職員の『行動指針』の中に打ち出し、勉強会で事例を通して共有し、更に法人の全体研修で認識を深めている。その中で職員の関わり方や共有空間を含む居室の在り方など、入居者が落ち着いて過ごせる全体的な環境作りを進めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・身体拘束と同様に勉強会や職員会議や委員会でも虐待の有無に確認し、またニュース等での事例を取り上げ各現場で再確認をする様に注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・勉強会で取り上げて学び知識を得ていますが、現在入居されている方に活用の必要性はありませんでした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には、丁寧な説明を行い、ご家族よりご不明な点はないか尋ねています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会総会や運営推進会議には、必ずご意見や要望を伺っています。また、ご利用者ご家族のアンケートをとり、参考にしています。2月の運営推進会議で公表しました。	代表者の運営推進会議への参加や、家族会での内容の把握、アンケートの実施による意向の確認など、様々な形で運営に参加協力が得られている。特に面会時には入居者の近況を話しながら、直接要望を求めるなど対話の機会を大事にしている。職員はその都度入居者の気持ちを確認して対応しており、日々の関わりの重要性を認識している。	今後も実施しているアンケートがホーム運営やサービスの向上に繋がるよう、工夫された内容での実施に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月の勉強会や法人内の業務改善委員会の時に職員からの意見を聞き、改善できる事からしています。	職員はチャレンジシートに個人目標を掲げ、資格取得や実践したい内容について意欲を持って取り組んでいる。会議では職員体制や休憩時間の取り方などについて活発な意見が出され、解決策を見出している。施設長は年2回の個人面談の機会に一人ひとりとじっくり話し、意見や要望を引き出し、何かあれば相談事にも応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・チャレンジシートを活用しながら半年に1回の個人面談を行い、現在の状況等を聞き、業務に対する不満や困っている事を尋ね、モチベーションが下がらない様に気を付けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・毎月の勉強会や苑内外での研修に積極的に受けて伝達方式で報告しています。年に1回苑内で研究大会を行い部署毎に発表する機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・阿蘇支部の連絡協議会に参加し情報交換や勉強会を兼ねて情報共有をしています。9月24日に「認知症の理解」の研修会にも参加しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・コミュニケーションをとり、信頼関係を構築することが一番なので声掛けやスキンシップをしながら自分(介護者)を知ってもらう事から始めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会時や電話での連絡時、困っている事はないかコミュニケーションをとり、信頼関係を構築することを大切に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人とご家族から情報を得ながら、他のサービスが必要なのか見極めながら対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・共に生活する中で本人の気持ちを大切にできる事は見守りに徹し、できない事をサポートし、信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族と過ごされる時間をゆっくりと過ごして頂くために居室で一緒にお食事をしたり、お茶を飲んだりして頂いています。また、中々自宅に帰れない方には送迎をしてご家族と過ごせるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域のイベントでの参加をした時に馴染みの人との時間や面会時にゆっくり過ごして頂くように努めています。また、行きたい所等があればドライブ等にて支援しています。	職員は入居者と家族の関わりの機会を大切にし、面会時には居室でゆっくり過ごしてもらうよう働きかけている。面会が難しい場合にも可能な限りホームから自宅へ送迎をするなど心を配っている。体調を崩した入居者が、知人の入居により徐々に元気を取り戻された例は、馴染みの関係の重要性を物語っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・共に生活しているのでお互いに声を掛けあったり、体調が悪い時は心配したり、労わったりして支えあいながら生活をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了になっても今までの関係を大切にお会いした時には現状をお尋ねしたり、困った時には相談して下さいと声掛けをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人の想いや願いを把握し意向に沿える様に努めています。職員間で情報を共有し、カーデックスの気づきや連絡事項を利用しています。また、困難な場合はアセスメントでチェックし、勉強会でカンファレンスを行います。	入居者の中には自らよく話をされる方や、意思表示が困難な方などもおられることから、一人ひとりにゆっくり関わりながら個々の願いを把握している。入居者の声は全職員が共有し、日々のケアやプランに反映されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・24時間シートやセンター方式の「私の姿と気持ち」のシート活用し、スタッフ間で共有し、ケアに繁栄しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・本人やご家族から情報を得、日々の生活の観察を行い、現状の心身の状態や残存能力等を把握する事に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・本人やご家族から意見や要望を聞き、想いを大切に介護計画を立てています。不穏状態がある方には、やまなみ病院のドクターから入眠活動状況一覧表を活用し指示を頂いています。また3か月毎のモニタリング、状態が変わった時はケアプランの変更に対応しています。	計画作成担当者は自らも日常のケアや夜勤に入り、1日を通し入居者の状況を確認している。アセスメントを全職員でチェックし、カンファレンスに全員が関わり、定期的な評価と見直しを実行している。新たに入居した方へ先ずは本人・家族に安心してもらうことをプランに盛り込み、家族の来所時には意見をもらいながら、プラン内容を分かりやすく説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の様子やケアについてはケース記録に記入しています。また、気づきや申し送りはカーデックスに記入し、職員間の情報共有とし介護計画の見直しに繋げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・いつでもご家族と過ごせる様に柔軟な対応をしています。また、必要なニーズがある時はすぐ対応できるな体制に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域でのイベントや地域交流会の参加、実習生の受入、地元小学生との交流を大切にしながら日々の生活を楽しみになっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・定期受診の他に専門医の受診時の送迎を行っています。かかりつけ医とは、受診不可の時は往診に来て頂いたり、紹介状を書いて頂いたりと直ぐ対応して頂いています。	夜間や緊急時の対応の面から協力医療機関をかかりつけ医とする入居者が殆どであり、定期受診送迎や往診が行われている。高齢者医療に真摯に取り組まれる医師の存在は、本人・家族の信頼となり、また、職員にとっても心強いものとなっていることは書面や聞き取りにも表れていた。職員は入居者の些細な変化も見逃さないよう、気づきがあればその都度共有の機会を持っている。口腔ケアの重要性から毎食後見守りや、介助による歯磨き、口腔内トラブルには協力歯科に相談やアドバイスを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・介護職員が気づいた時にすぐ看護師に伝え、対応しています。GHの看護師が不在の時は、特養の看護師がフォローする協力体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、面会に行き状態を親に行きます。ご家族や病院関係者の方から情報をお尋ねして退院後について話し合う時には参加させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入院中も今後について話し合いながら、本人やご家族の気持ちを大切に、希望に沿える様に支援していきます。事業所のできる限られた医行為や病院との違いを理解してもらい、主治医と特養の看護師との連携を行い、重度化になった時にご家族の希望が叶う様に話し合います。	入居された一人ひとりを大切にされた支援は、重度化・終末期も同様に医師や家族の協力のもと、今年度も『福寿苑』で安らかな最期を迎えられた方がおられる。支援後も看取り介護における偲びのカンファレンス評価(利用者の精神的苦痛の緩和はできたと思うか?など10項目)を行った他、家族に総合評価アンケート(職員の対応・医療看護体制など)を実施し、真摯に振り返りを行っている。終末期支援中の家族との連絡ノートから、家族とホームが如何に本人に寄り添った時間であったかが伝わってきた。	職員の聞き取りの中からも、「ご縁があるから頑張ろうと思える」という言葉が聞かれた。これからは穏やかな時間が流れる地で、法人の協力体制も受けながら、入居者にとって最良の時間を提供頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・毎年法人全体で『救急蘇生法』を阿蘇広域北部消防署から指導を受けています。また、急変時や事故発生時の対応マニュアルの整備し、職員に周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・毎年災害時の避難訓練を行い、地域との協力体制を確認する為に地元の消防団部長と連絡をとっています。屋外の建物の周辺を1日1回巡視し安全確認を行い、危険防止に取り組んでいます。	法人全体での災害訓練(3・7月)や、6月には水害対応訓練を実施している。また、地元消防団長との変わらぬ協力体制を継続させている。火を出さないことが一番であり、居室をはじめホーム内や建物周りの安全確認を徹底している。災害対策については、運営推進会議の中でも議題に上げ参加者より意見や情報が共有されている。	今後も災害対策への職員の意識強化や、地域との協力体制の継続を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを守り、プライドを損なわない様に気を付けています。今年はコミュニケーションの苑内研修会(外部講師)を行いました。	方言を交える中にも職員の対応は入居者一人ひとりを敬う姿勢があり、日常の相互の信頼関係が見て取れるようである。法人内研修や日頃から施設長、職員の言葉が心理的虐待を招いていないか?立場を置き換えて対応する事が指導されている。毎日、数回使用する洗濯機も故障することなく長年使い続けられていることも、職員が入居者同様、物品へも愛着を持って大切に使用する姿勢であろう。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の思いや希望が言える様に配慮しながら雰囲気を作り、コミュニケーションをとっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人のペースに応じた日々の暮らしを大切にし支援しています。職員間でのご利用者の希望を共有し、その方の状態に応じて支援できる様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・外出する時はや行事等には、お化粧をしたり、おしゃれな洋服を着たり等ができる様に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事嗜好調査の内容を変えてより詳しく調査したり、家庭菜園で収穫したミニトマトやキュウリやナス等を食事に入れたり、楽しみながら食事ができました。お茶つぎや食器拭きや台拭きや献立書きとそれぞれ役割を活かしながらできています。	入居者の好みや意向は嗜好調査や普段の関わりの中から聞き取り、法人栄養部と連携しながら楽しんで貰える食事提供を行っている。季節を取り入れた献立は、盛りつけや食器を工夫し職員も見守りを行いながら食事を摂っている。入居者の食への関わりは野菜作りや収穫、お茶の準備や献立書きなど特技やできることを無理なく取り組んでもらっている。ゆっくり自分のペースで食べられる方、早くすまれた方はいつものソファに移動しブランケットを膝にかけて休憩される方など、食後も一人ひとりの時間が大切にされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎回の食事摂取量や水分量のチェックをしたり、一人ひとりの状態に合わせた食事形態(ミキサー食や超刻み食等)や食器の選択等を体操しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアをおこなっています。自分できる方は見守り、できない方には介助をしています。口腔体操は毎日行い、口腔内のトラブルがある時は協力歯科医師に相談しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・一人ひとりの個別の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援をしています。なるだけオムツに頼らない様に自力でトイレでの排泄が継続できる様に支援しています。(本人のペースにあった声掛けや介助の仕方)	その方に応じた声かけや誘導、支援方法を職員間で共有しながら自立の継続や失敗のない排泄支援に努めている。トイレが設置された3居室や共用のトイレ2箇所は、掃除や職員の小まめな確認により気持ちよく使用できる配慮されている。個室トイレは、特に安全に使用できるようバーや物品の位置が検討された環境であることが確認された。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分補給や適度な運動を基本としている。朝のバナナヨーグルトや牛乳やオリゴ糖を継続しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・本人の体調や気分に合わせて声掛けをしています。入浴拒否がある時は無理強いせず、又の機会を選択しています。入浴時には癒しの音楽を流したり、温泉や入浴剤を入れたり楽しめる様に工夫しています。	明るく風通しのよい温泉浴室では、一人ひとりの体調に配慮した入浴が支援されている。拒否の方に対しても職員は、声かけやタイミングを見計らうことや翌日に変更するなど本人の意思を大切にしている。また、季節湯や入浴剤、好みの音楽をながす等継続して取り組んでいる。	名湯を味わえることは何よりの寛ぎの時間と思われる。今後は阿蘇の檜を使ったご当地ならではの変わり湯などの取り組みにも期待したいところである。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室やリビングで自由に休める様に声掛けをしています。夜間不眠時には、お茶等を飲みながらお話をしたりリラックスして頂ける様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬の内容が解り易い様にファイルに綴り、各職員が見やすい様にしています。管理は看護師が行い、与薬はその日の担当者が本人の顔と名前と3回声にして確認して与薬する様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・買い物や美容室やマッサージ等がしたい時には職員が車で連れて行き、自宅に帰りたいたい時はご家族に連絡し日程を決めて送迎をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・閉じこもりにならない様に天気の良い日にはドライブや散歩の出かけたりしています。本人の希望に沿って外出の支援をしていますが介護度が重度になり外出する機会が減っている方もいます。	季節を感じながらの散歩や散策が身近に支援できる環境にあり、職員は希望や体調を確認しながら取り組んでいる。訪問当日は地元の祭りの開催日であり、この日を心待ちにしていた入居者は笑顔で帰苑された。車酔いや体調などで外出されなかった方には、職員が歌や会話でその時間をサポートしていた。	介護度も高くなり揃っての外出は困難になっている現状である。今後も家族の協力を得ながら、個別支援や日光浴を兼ねた身近な外出を継続されることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で管理できる方は自己管理して頂いています。自信のない方は事務所で預かって必要時いつでも使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望があればいつでも電話ができますようにしています。町内電話を利用している方もいます。年賀状や暑中見舞い等自分で書ける方は出しています。書けない方には担当者が本人に代わって出しています。定期的に近況報告や写真を同封しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビングには季節のお花がいつも生けています。明るく清潔感のある空間と和室は掘り炬燵でゆっくりくつろげる様に心懸けています。玄関内外にベンチを用意し、浴室にも椅子を用意して居心地良く過ごして頂ける様に配慮しています。	職員の持ち寄った草花や特技を生かした季節感のある共用空間には、入居者の作った小物入れも各場所に飾られている。また、和室にある仏壇は、心の拠り所となるよう職員の手入れが行き届き、ここにも木工が得意な入居者が作った数珠掛けが置かれている。菜園を臨むリビングホールで、得意の草笛(ナイロン製)で披露される“揚げば尊し”は実に趣きがあり、目を閉じて聞き入ってしまう程であった。共用空間を職員と共に、入居者一人ひとりが作り出しているホームである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングのダイニングテーブルやソファの配置を変えて気の合った利用者同士が過ごせる様に配慮しました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は使い慣れた物を持ち込みをされるように伝えてはいます。本人が住みやすく居心地が良い様にベッドの配置等を工夫しています。	これから過ごすホームの自室が居心地良く安心できる空間となるよう、持ち込みの品については具体的に説明を行っている。家族や思い出の写真の掲示、広告を使った作品作りを長年勤しまれる方、アロマによるリラックス空間など、家族の思いや職員のサポートが随所に感じられた。訪問した家族が本人の穏やかな表情に安心してホームをあとにされる場面が印象的であった。	どの部屋も清潔に、そして安全に過ごせるように物品の位置や配置などが検討されている。今後も『福寿苑』で穏やかな時間を過ごせる居室環境の継続に期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室の名前やトイレの看板は、利用者の目線に合わせて解り易く表示しています。廊下やトイレや浴室は、安全に活用できる様に手すりを設置しています。		